

インフルエンザの疫学パラメータ

- 病原体：オルソミクソウイルス科に分類される、エンベロープを有する一本鎖RNAウイルスであり、A型からD型まで存在し、ヒトに流行をもたらすのはA型とB型である。
- 潜伏期間：1～3日（pdm09は中央値が3～4日との報告もある）
- 感染経路：呼吸器からの飛沫感染、接触感染であり、ウイルスは環境表面上で2～8時間生存するとされる。
- ウイルス排出期間：発症前日から発症後3～7日間

参考：感染研ホームページ インフルエンザとは

感染研 新型インフルエンザ患者発生後の施設における環境整備について

厚労省ホームページ インフルエンザQ&A

造血細胞移植ガイドライン（2018年8月）

インフルエンザの歴史

インフルエンザウイルスは1934年に発見され、その後、1940年には過去のウイルスとは抗原的に全く異なるウイルスが発見され、これまでのウイルスをA型、新しく発見されたウイルスをB型とすることになった。1918-1919年の全世界の罹患者6億、死者2千300万人とされるスペインかぜの原因が、A型であることが血清学的な調査で判明。

1970年の初めにインフルエンザA型ウイルスに関する命名法が決定された。この時点で、過去に人類が感染したインフルエンザA型ウイルスはその抗原性により分類され、

- ・インフルエンザA(H1N1)型ウイルス：スペインかぜ、イタリアかぜ、
- ・インフルエンザA(H2N2)型ウイルス：アジアかぜ、
- ・インフルエンザA(H3N2)型ウイルス：香港かぜ、と統一され現在に至る

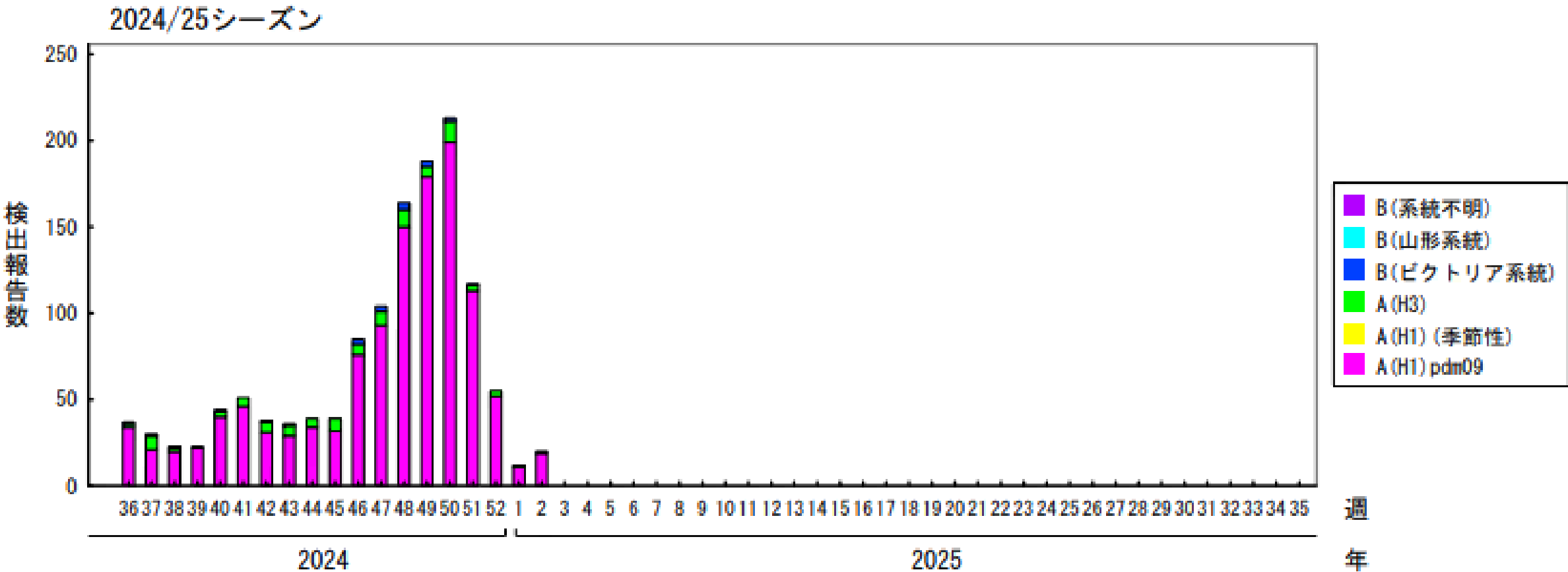
週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数、2020/21～2024/25シーズン

(病原微生物検出情報：2025年1月22日 作成)

各都道府県市の地方衛生研究所等からの分離／検出報告を図に示した



Infectious Agents Surveillance or Report



都道府県別インフルエンザウイルス分離・検出報告状況、2024/25シーズン

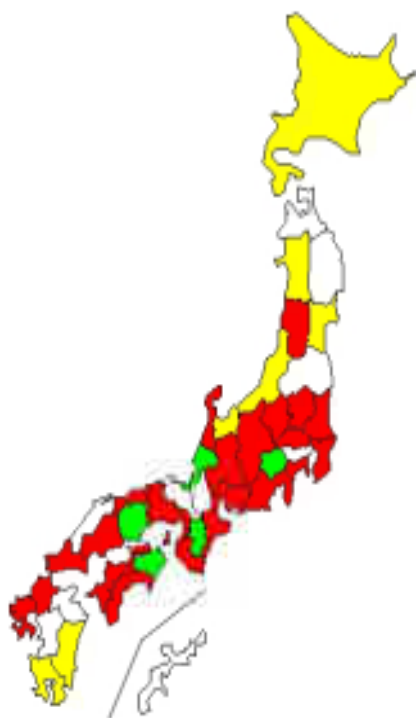
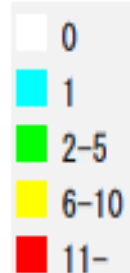
(病原微生物検出情報：2025年1月22日 作成)

* 各都道府県市の地方衛生研究所等からの分離／検出報告を図に示した

IASR

Infectious Agents Surveillance or Report

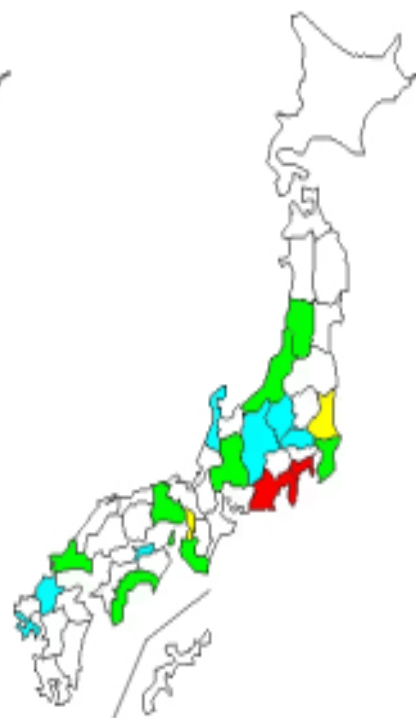
検出報告数



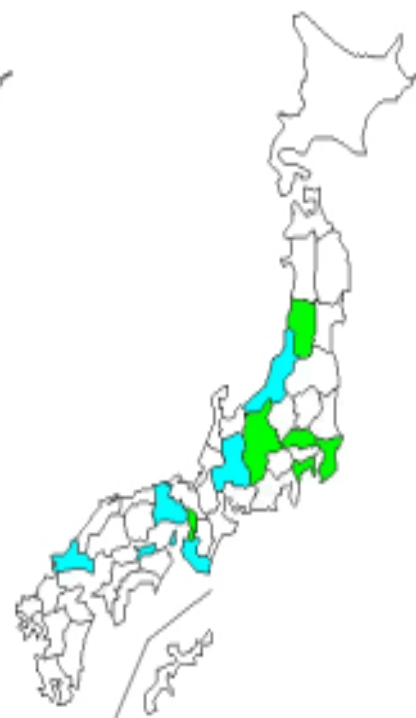
1202 例
A(H1)pdm09



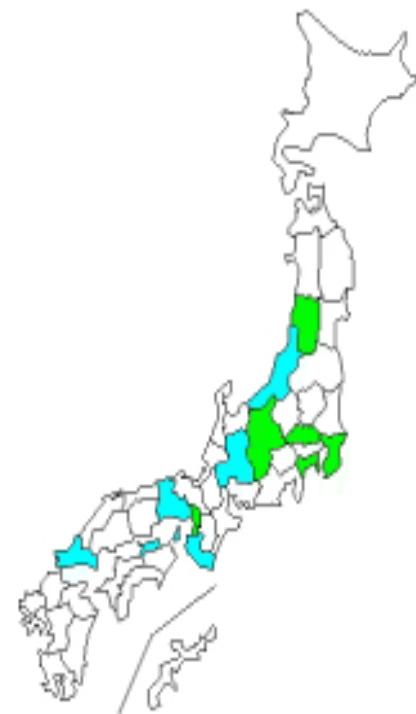
報告なし
A(H1) (季節性)



93 例
A(H3)



24 例
B(合計)

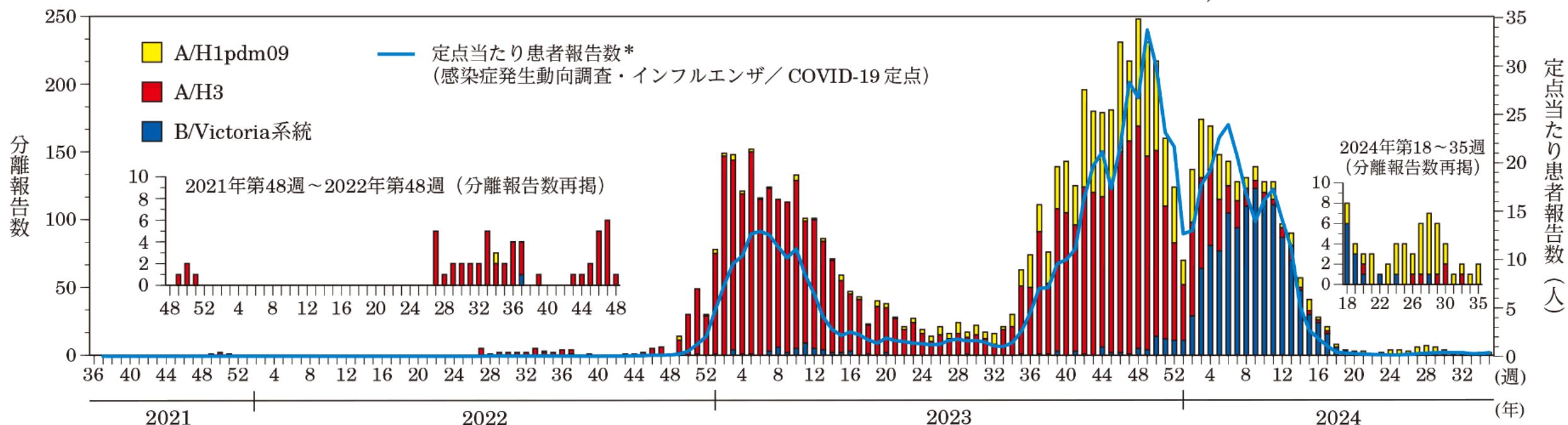


23 例
B(ビクトリア系統) (再掲)

出典：IASR インフルエンザ
都道府県別 分離・検出報告数

インフルエンザの流行型

図1. 週別インフルエンザウイルス分離報告数とインフルエンザ／COVID-19定点当たり患者報告数の推移, 2021年第36週～2024年第35週



*全国レベルでの流行開始の指標：1.0人／週

(病原体検出情報サブシステム：2024年9月26日現在報告数) (感染症発生動向調査：2024年9月18日現在報告数)



2023-4シーズン流行のまとめ

IASR 2024年11月号

- AH1N1pdm: クレード C.1.1, C.1.7, C.1.7.2, C.1.8, C.1.9等が検出
 - 抗原性はワクチン株の人血清でC.1.7以外はよく反応した
- AH3N3: クレード G.1, G.2, G1.1.2, J.1, J2等
 - 抗原性はワクチン株の人血清でJ.1, J.2には反応が低下していた
- B: Victoria
 - 人血清とよく反応